

# 市民運動の死角

野口氏「自殺」放置は法の支配そのものをゆるがす

佐賀地域ポスト 豊島耕一（佐賀大学理工学部）

ピースデポ総会参加の皆様、こんにちわ。核問題とは別件ですが、以下に提起する件にとって重要な時期と思いい、皆様にお訴えすることにしました。このような問題を扱う市民団体やNPOがあればいいのですが、見つけることができないので、いろんなところに問題提起しています。

野口英昭氏が沖縄のカプセルホテルで「自殺した」とされる事件は、文字どおり単なる「事件」と思われているかも知れませんが、決してそうではなく、実は全国的な緊急課題を提起しているのではないかと思います。つまり、一大権力犯罪の疑惑、そしてメディアによる意図的な情報隠蔽ないし情報「偽装」の疑惑が強いのです。この事件は、また単に「自殺か他殺か」という謎解き問題でもありません。

この事件については、ひと頃のTVによる「報道」の波も過ぎ去り、そしてそれによる「自殺」という印象操作もあって、多くの方はケリがついたと思っておられるかも知れませんが、しかし報道されたことがらをきちんと見てみると、自殺と断定するのは非常に不自然であることが分かります。にもかかわらず沖縄県警も警察庁も自殺と即断し、メディアがこれに追随している、しかもこれが多くの国民の注視のもとで行われているという事態は、極めて重大だと思います。

もしこの件が、多くの方が疑っているように暴力団関係者による暗殺であり、これを警察が容認し、さらにメディアがこれを隠蔽しているという事態であった場合、「法の支配」というこの社会の根本原則が冒されている、それも衆人環視の下で公然と冒されているということを意味します。警察が治安機関であるのか、それとも暴力団管理機関にすぎないのかという問題、そして、メディアが報道機関であるのか、それとも情報の偽装・隠蔽機関であるのかという問題が、非常にあからさまに、そして緊急のアジェンダとして、全国民の前に提起されていることとなります。

この問題を鋭く追及している「世に倦む日日」というブログがありますが、その「沖縄タイムスに訴う -- 現地による現地からの現地の真実解明を」という20日の記事の中に次のように書かれていますが、この問題の本質

を端的に表現していると思います。

**この事件を安易に自殺で見逃して許してしまえば・・・日本が昔のフィリピンや中南米諸国のような国になることを意味します。**

(末尾に全文。 <http://critic2.exblog.jp/2803330/> )

これは真の意味での「テロとの戦い」かも知れません。

核問題はじめ憲法、平和など多くの課題が山積してはいますが、次のような、メディアによる隠蔽に対抗する行動をお願いできないでしょうか。

(1) ウェブサイトやブログを持っておられる方は下記のサイトにリンクを付ける

(2) メールで紹介する、問題提起する。

また、末尾の文書へ、何らかの形での支持表明をしていただくことも有益かと思います。

ご存じの方も多いと思いますが、上記の「世に倦む日日」に本質を抉る論説が、また「きっこの日記」には野口氏の遺族とのメールのやりとりが出ています。後者は確証はありませんが本物と思われます。また、亡くなった野口氏の奥さんの友人と称するブログが18日にスタートしています。また、「Shirietoku!!」というサイトにはこれまでに報道された事柄が網羅的に整理されています。

世に倦む日日 <http://critic2.exblog.jp/>

きっこの日記 <http://www3.diary.ne.jp/user/338790/Shirietoku!!> これと“野口英昭”で検索すると出てきます。野口氏の奥さんの友人と称するブログ

<http://mama-chari.cocolog-nifty.com/blog/>  
または“mamaのつぶやき”で検索。

私のブログにもいくつか記事を書いています。

<http://blog.so-net.ne.jp/pegasus/>

今のところ、有名ブログ“世に倦む日日”から始まった動きであり、一般には知られておらず、また「きっこの日記」の野口氏遺族のメールの信憑性など、情報の不確かさがつきまといまいます。なんとかこれらを確認していく作業が重要です。しかし権力犯罪の疑惑は濃厚です。

私たちの社会の治安のシステムが危機にさらされているとしたら、しかも、こともあろうに警察自体にその原因があるとしたら、だれも黙ってははいられないでしょう。

まして、人間の安全保障に関心を持つ私たちには、この問題に取り組む十二分な理由があると思います。

-----  
(ブログ「世に倦む日日」から転載)

## 沖縄タイムスに訴う -- 現地による現地からの 現地の真実解明を

沖縄タイムスの皆様、こんにちは。ブログ「世に倦む日日」で情報発信しているthessalonikeと申します。先月、那覇市内のカプセルホテルで起きた野口英昭氏の怪死事件について若干のお願いを申し上げます。すでにご承知のとおり、この事件は1月18日に発生した時点で沖縄県警によって自殺と判断され、新聞やテレビの報道でも自殺として断定されて報じられ現在に至っています。しかしながら、死因や現場の状況について多くの謎があり、また死後に次々と出てくる情報の奇怪さと相俟って、多くの者は未だに事件の真相が解明されたとは感じておりません。新聞やテレビは県警の発表に沿った報道のまま、事件を自殺として強引に処理し、問題を幕引きする方向へ誘導しようとする姿勢が強く見えますが、ジャーナリストの立花隆氏などは、間違いなく組織暴力による殺人事件であるという認識を示していて、また一部の週刊誌は事件を他殺ではないかと疑う視点で取材を続け、その報道姿勢に読者である国民が支持を寄せるかたちで記事連載が続いている状況にあります。

ネットの世論ではむしろ他殺説の見方が圧倒的と言ってよい現状にあり、事件から一ヶ月以上が過ぎた現在でも、関心は一向に衰えることなく、事件の推理とマスコミ報道に対する検証が行われています。テレビが報道する野口事件は、基本的に沖縄県警のリークとそれに基づく関係者の取材で構成されていますが、カプセルホテル関係者の証言は二転三転し、また包丁やサッカーTシャツや空港監視カメラ映像の情報など、沖縄から発信される事件情報はどれも全く信用できないものばかりで、真相解明を願う国民の期待と熱望を裏切るものばかりと言っても過言ではありません。様子を察するところ、これほど高い関心を集めて論議されている野口英昭怪死事件が、現地の沖縄ではあまり人々の興味関心の対象になっておらず、事件に関する報道や情報も、現地のジャーナリズムが直接取材したものがほとんどありません。この点はわれわれが残念に思うところであり、沖縄のジャーナリズムにぜひ関心を持っていただき、われわれの知る権利に添っていただきたいところです。

この事件は、先日の国会質問でも細川律夫衆院議員（民主党）によって取り上げられ、死因に不審な点があるのになぜ警察が簡単に自殺だと判断したのか追及されていました。多くの者が、この死は自殺ではなく組織暴力による殺人だと考えています。そして県警は殺人事件であることを察知しながら、それを無理やりに自殺と判断して固め、判断を正当化するために関係者に偽証させたり、ニセの証拠を捏造して報道機関にリークしているのだらうと疑っています。県警のリークから出てくる「証拠」や「証言」が異常に不自然で疑問点が多く、したがって事件は単に自殺か他殺かという問題を越えて、警察とマスコミと地域が一体になった一種の権力犯罪の様相を帯びてあらわれています（偽証工作・証拠捏造・世論操作）。だからこそ、この事件がまさに自分たち自身の問題として、市民社会への深刻な脅威として意識され、ネットで議論され続けているのだらうと思われま。結論から言えば、沖縄県警が発信しているメッセージは、暴力団に被害さ

れた人間は自殺として処理するということです。

暴力団とトラブルになって発生した殺人事件は、警察は刑事事件としては取り扱わないという宣告を、この事件の処理を通じて象徴的に表明しているのです。組織暴力による犠牲は自己責任だから、警察の仕事の範囲には含めないという権力の冷酷な本音（権力意志）が示されているのです。自己責任の名において弱い者の権利が不当に脅かされ剥奪される嫌な社会に変わりつつありますが、それが単に経済生活の面だけでなく、治安生活の面にまで及ぼうとしているのが、まさにこの事件の本質的意味と言えるでしょう。ジャーナリズムにはその点を正しく見据えていただきたいのです。この事件を安易に自殺で見逃して許してしまえばどうなるか。警察は今後、組織暴力による市民の犠牲を自殺で処理する免罪符を得ることになります。警察の姿勢がそうなれば、暴力団は大っぴらに私的暴力をふるって市民を震え上がらせることができ、自由自在に恐喝と脅迫で利益を上げられるようになるでしょう。治安の破壊であり、日本が昔のフィリピンや中南米諸国のような国になることを意味します。

警察が犯罪を黙認するために偽証工作したり証拠捏造する行為は権力犯罪です。それにマスコミが加担して警察の不正を公共の電波で正当化する行為も権力犯罪です。権力を持つ者が、事実を捻じ曲げ、市民を騙して、不正や不作為を合法化し正当化する行為は権力犯罪です。かつて沖縄は巨大な権力犯罪である戦争犯罪の犠牲になった歴史がありました。戦争犯罪こそ権力犯罪の最たるものと言えるでしょう。軍隊は沖縄を守ると言いながら、沖縄の民衆を無意味な戦闘に巻き込んで大量虐殺しました。国体護持と言い、八紘一宇と言い、軍国主義の権力は美辞麗句で粉飾したイデオロギーで国民を騙し、国民を戦争に駆り立て、何百万の生命を奪う事態を惹き起こし、地上戦の災禍の直撃を受けた沖縄は、その最大の犠牲者となりました。権力犯罪が最終的にどれほどの悲劇に至るかを、われわれ以上によく承知しているのは沖縄の皆様のはずです。権力が市民を騙し不正を隠蔽する現実を許してはならず、権力の欺瞞行為に対しては、われわれは常に警戒的でなくてはなりません。

「命どう宝」を言い、われわれにそれを教える沖縄の人々が、この事件に無関心な理由が分かりません。どうか現地のジャーナリズムが現地を歩いて真実を解明して下さい。カプセルホテル関係者の証言が二転三転するのはなぜですか。雑貨屋の店は野口英昭に本当にあの時刻に包丁を売ったのですか。曖昧にせず、真実を教えてください。監察医が死亡検案書の死因を「不詳」としながら、那覇署がそれを自殺にしたのはなぜですか。監察医と那覇署の刑事はどういう協議をしたのですか。真実を検証して下さい。那覇空港の監視カメラの「四人合流」の情報は誰がテレビ朝日に出したのですか。それを見た人は誰ですか。報道ステーションに声で登場して証言した「空港関係者」とは誰ですか。そしてその映像には誰が映っていたのですか。沖縄タイムスは沖縄のジャーナリズムの名誉と使命にかけて、この事件を調査取材し、全力で真相究明して下さいを願います。そうでなければ、それをしなければ、地域の事件報道に責任を負う沖縄タイムス自身が、この暗黒の権力犯罪の末席に身を連ねる結果に事実上なりかねません。

見て見ぬふりは許されないのです。社会の正義と真実の報道に身を携わらせる者であればなおさら。

上の意見書を沖縄タイムスに投稿。写しを大田昌秀参院議員（社民党）に送信。  
<http://critic2.exblog.jp/2803330/>